

# 文芸特集

たくさん作品の中から選ばれた秀作の一部を紹介します。限られた字数の中に織り込まれた、さまざまな思いや季節の情緒を味わってみてください。

## 一席

寒いかとメダカの鉢をトントンす藻と藻の間から目だけ動かす  
領家3 森岡 賢吉

評 世の中にはいろいろのペットがいる。メダカをペットにしている作者は、寒い日外出から戻ると鉢をトントンする。するとメダカは藻と藻の間から目だけ動かして応ずるのである。その愛らしさが下句に表現されている。

かなうなら娘をもうけ手をつなぎ夕やけ小やけ歌つて歩く

唐突にいのち悲しき日のありて赤きりんごをひとつ洗ひぬ  
芝穂ノ瓜1 山崎晋一郎

夫に従いカルテを持ちてゆく通路コーヒーの匂い、どこからかして  
川口1 川久保良治

コンビニのおでんの湯気が独り身を温めくれる夕暮れの中  
道合 神谷安久子

登校の若きが飛んでく自転車を追いかけて行く立春の風  
芝高木2 森田富美子

百歳の母は声立て笑つた曾孫も百年で「しわ婆なるよ」に  
上青木3 岩崎モト子

会えぬこと分かつていても今年こそ春になつたらと書き足してしまふ  
坂下町3 川名 佳子

杖の妻につきて通院駅ごとのエレベーターの位置も覚ゆる  
朝日3 高松 幸江

外出の吾の帰宅を見はからい部屋を温めて息子は待たくれし  
安行原 山田 英一

一人居の心細きか安らぎか老婆は今日も車押し行く  
宮町 田中 澄子

ろうばいの甘い香りに足とめていつものところで深呼吸する  
芝下2 中山千枝子

ばんばりに頬そめられてみどり児の小さき笑みの初雛の宵  
里 柴田 境子

これからはA-1監視ロボットに介護されいむわが身の近し  
差間 中田 道子

振り振り返り振り返りつつ自転車の孫は見送る手を振りながら  
安行原 田口 光江

いが栗を活けて眺めて寝につきぬ夢にふるさと父母にあるか  
北園町 松本 京子

目覚めれば壁の写真の父母の顔われを見つめて来いともいわず  
安行原 高橋 清

中一を亡き姉と観たスカラ座に今蘇るジェルソミーナと  
戸塚境町 稲垣 洋

## 俳句

### 一席

とまり木になってあげたい春の宵

本町4 田邊 元子

評 ある意味で、俳句の作者もドラマの演出家と言える。春の宵という季語を配することで、この作品の場面展開も劇的に変化する。きつと作者の思いも透けられるであろう。季語は言葉の活性化を促す力がある。

矢絣の目立つ庭園卒業す

川口4 牛島はじめ

地図にない里へつばくら雷返り

芝1 氏家 輝雄

伊豆の島動かすごとく春の潮

安行出羽2 大江 恵一

毒舌も時に愛嬌沈丁花

弥平4 木村恵美子

陽炎の中に真実見つけた

安行領根岸 小林 茂

伏流水楢田の代田満たしけり

川口1 小安 章代

暁にまどろむ鼓動春の声

源左衛門新田 佐藤 都

言の葉の一写千里に夏隣

上青木1 鈴木 千鶴

折鶴は吾子の手の中広島忌

安行領根岸 田中 幸子

真つ白な未来の空へ卒業す

前川2 長尾 謙治

子が登る肋木迫る雲の峰

南町1 野本 貞義

大桶の芽ぶきや過疎のすすむ村

戸塚2 春山ふみ子

窓口の変らぬ声に春近し

朝日5 宮川 照子

桜舞ふ茶会の席へ天空へ

南鳩ヶ谷5 村田 和枝

### 一席

野心抱く泉は未だ涸れてない

飯塚2 川瀬伊津子

評 人生も八十路の二た駅を過ぎると、併記の謙虚に遜る「下り坂ただ生きものとして歩む」の句も頷けたが、掲句の野心こそが現実の展望として共鳴したい。泉の一語に達観を酌む。

負の壁を貫く覇者の心意気

鳩ヶ谷本町3 加藤 レイ

職二つともに天職喜寿になり

東川口2 星野 直康

ラブドラマ老いたればこそ妙薬に

元郷2 田口 公江

ケセラセラ好きな色にて息抜く日

並木元町1 詔石 麗子

もの忘れ自分が怖いお約束

東内野 小石 律子

要介護数値に耐える車椅子

安行領家 原澤かね子

ひらがなの母の小言の処方箋

上青木西4 星野 良一

退院を祝いほほえむ千羽鶴

上青木4 星野 明美

先輩等の箸で凭せる安い店

安行領根岸 堀口 弘一

猫の持つ目利きに隅の屋根を貸し

領家2 福島きよの

## 短歌

### 金子富美子 選

一人居の心細きか安らぎか老婆は今日も車押し行く  
宮町 田中 澄子

ろうばいの甘い香りに足とめていつものところで深呼吸する  
芝下2 中山千枝子

ばんばりに頬そめられてみどり児の小さき笑みの初雛の宵  
里 柴田 境子

これからはA-1監視ロボットに介護されいむわが身の近し  
差間 中田 道子

振り振り返り振り返りつつ自転車の孫は見送る手を振りながら  
安行原 田口 光江

いが栗を活けて眺めて寝につきぬ夢にふるさと父母にあるか  
北園町 松本 京子

目覚めれば壁の写真の父母の顔われを見つめて来いともいわず  
安行原 高橋 清

中一を亡き姉と観たスカラ座に今蘇るジェルソミーナと  
戸塚境町 稲垣 洋

## 川柳

### 新井 愁思 選

負の壁を貫く覇者の心意気  
鳩ヶ谷本町3 加藤 レイ

職二つともに天職喜寿になり  
東川口2 星野 直康

ラブドラマ老いたればこそ妙薬に  
元郷2 田口 公江

ケセラセラ好きな色にて息抜く日  
並木元町1 詔石 麗子

もの忘れ自分が怖いお約束  
東内野 小石 律子

要介護数値に耐える車椅子  
安行領家 原澤かね子

ひらがなの母の小言の処方箋  
上青木西4 星野 良一

退院を祝いほほえむ千羽鶴  
上青木4 星野 明美

先輩等の箸で凭せる安い店  
安行領根岸 堀口 弘一

猫の持つ目利きに隅の屋根を貸し  
領家2 福島きよの